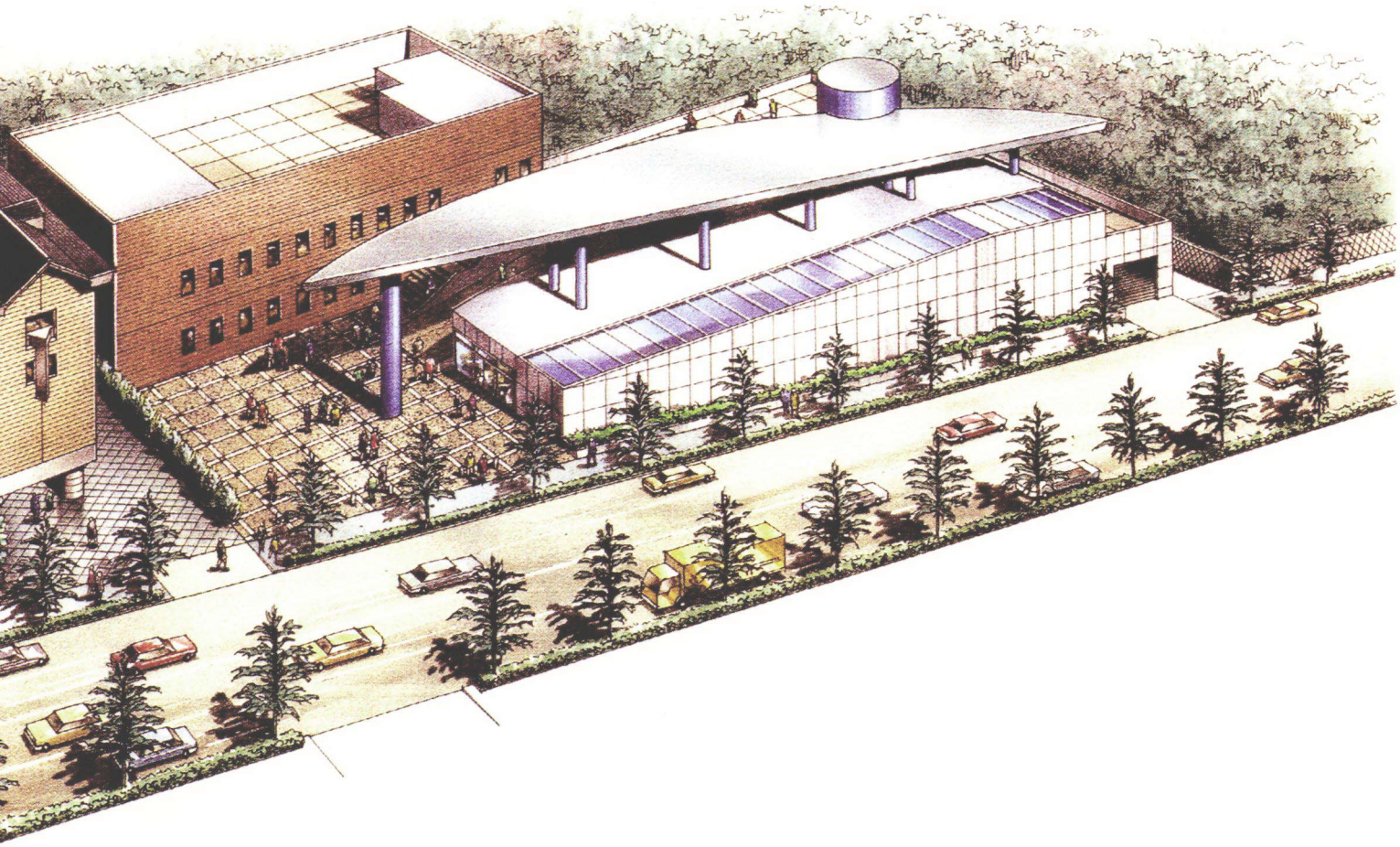
THE KYOTO UNIVERSITY MUSEUM

NEWSLETTER No. 3

京都大学総合博物館
ニュースレター



新館建物企画設計プラン完成

目次

京都大学総合博物館建物の企画設計プランかたまる 2頁
総合博物館Q/A. 5頁

京都大学総合博物館新館建物の企画設計プランかたまる

平成9年4月1日に，教官スタッフ9名（教授３名，助教授３名，助手３名），事務官４名をもって組織のたち上げ，実質的な研究，教育活動，マルチメディアを活用したさまざまな学術情報の提供など，自然史・技術史に関する学術情報を国内外に発信する活動を活発に行ってきたが，京都大学施設部との連携のもとに，平成10年度概算要求案の基礎となる自然史分野を中心とする博物館建物の企画設計プランの検討を進め，このほどその大綱が決定された（表紙の新建物イメージ図および3-4ページの設計図参照）。

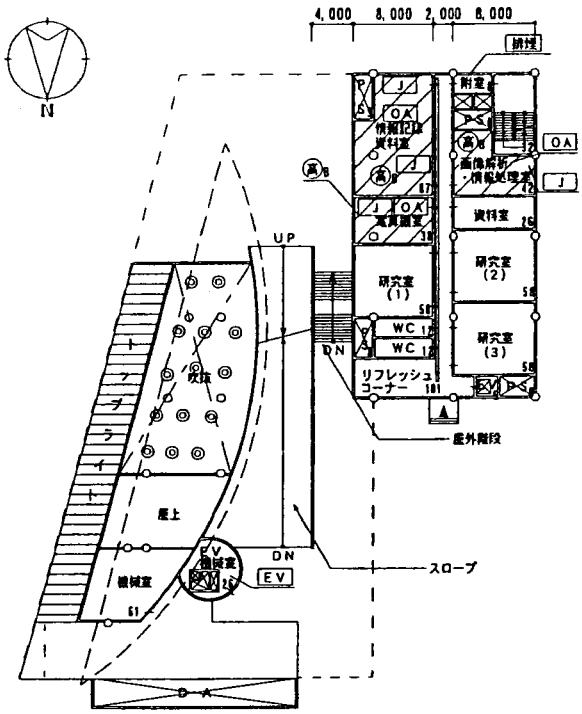
新建物の建設予定地は，東大路通りに面した現在の総合博物館（文化史部門）（旧文学部博物館）の南側で，地上1階，地下3階，総面積6545㎡で，現有の他の建物ともよく調和のとれた設計プランとなっており，建設が完了した暁には新たな京大の名所が出現することになる。

建物の設計は国立大学の博物館としては，東京大学総合研究博物館に次いで２番目の施設となるが，はじめて機能を重視した本格的な構造となっており，200万点を越える学術標本資料の収蔵，各種の展示（収蔵展示，常設展示，企画展示，新発見の話題を取り上げるトピックス展示），活発な研究・情報発信活動の中枢（資料基礎調査系，資料開発系，情報発信系）となる３つの大きなコンパートメントからなり，きわめてバランスのとれた設計プランとなっている。この企画設計案にのっとり，将来予算化が進んだ暁にはさらに具体的な実施設計プランに着手することになる。

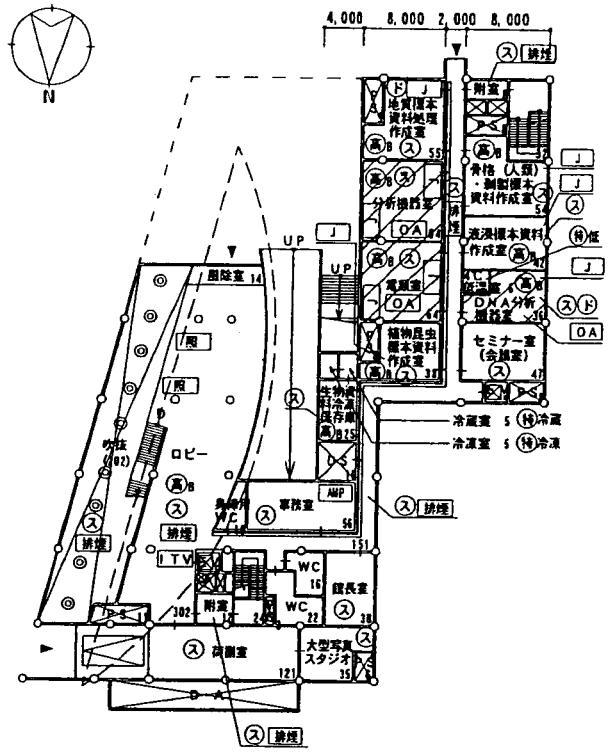
京都大学総合博物館設立の意義

京都大学総合博物館は，既存の旧文学部博物館を併合して，自然史分野，技術史分野を含む新たな施設として４月１日より組織が先行してスタートしたが，この構想は１０年以上にわたる歳月をかけ，京都大学における多数の学部・研究施設，とりわけ理学部，農学部，総合人間学部（計画発足当時，教養部），薬学部，並びに霊長類研究所，東南アジア研究所，文学部などが中心となって，自然史科学，人文科学分野を統合した新たな京都大学の施設として計画されてきたものである。計画推進に当たっては，昭和６２年当時より西島安則前総長をはじめ，寺本英（故人），日高敏隆（現滋賀県立大学学長），鎮西清隆（現大阪学院大学教授）氏ら，歴代の理学部長がその強力な推進役となって，今日の構想案までようやくこぎ着けたものである。とくに自然史科学の分野にとっては，京大はもとより全国でも待望久しい拠点施設であり，その意味でも本年，1997年その創立100周年を迎えた京都大学にとっては，正に記念すべき全学共同利用施設の立ちあげであるといえよう。

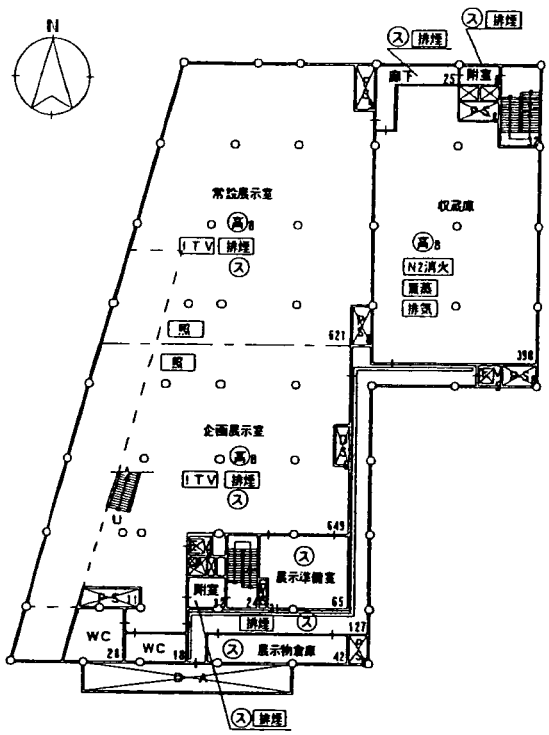
総合博物館発足祝賀会（1997年４月１日）
井村裕夫総長は、祝辞の中で「ハーバード大学に肩を並べる博物館にしたい。」と抱負をかたられた。



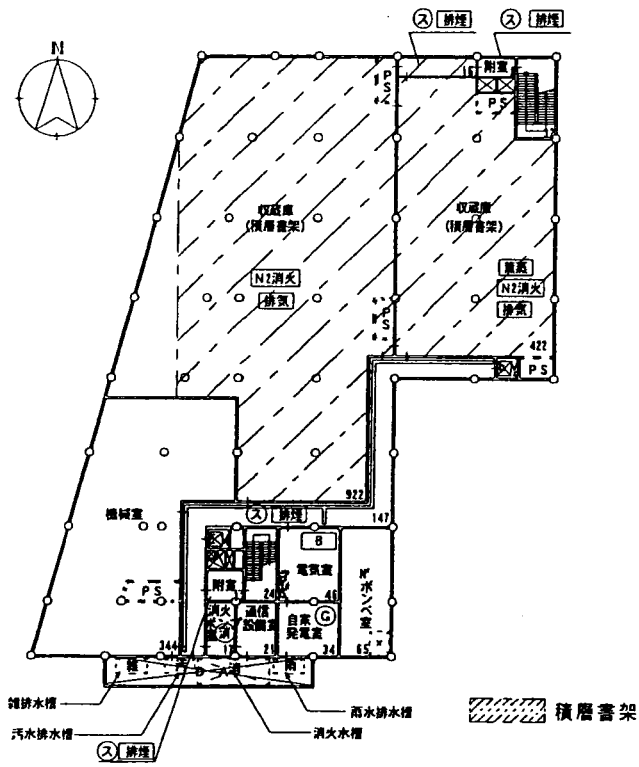
1 階 平 面 図



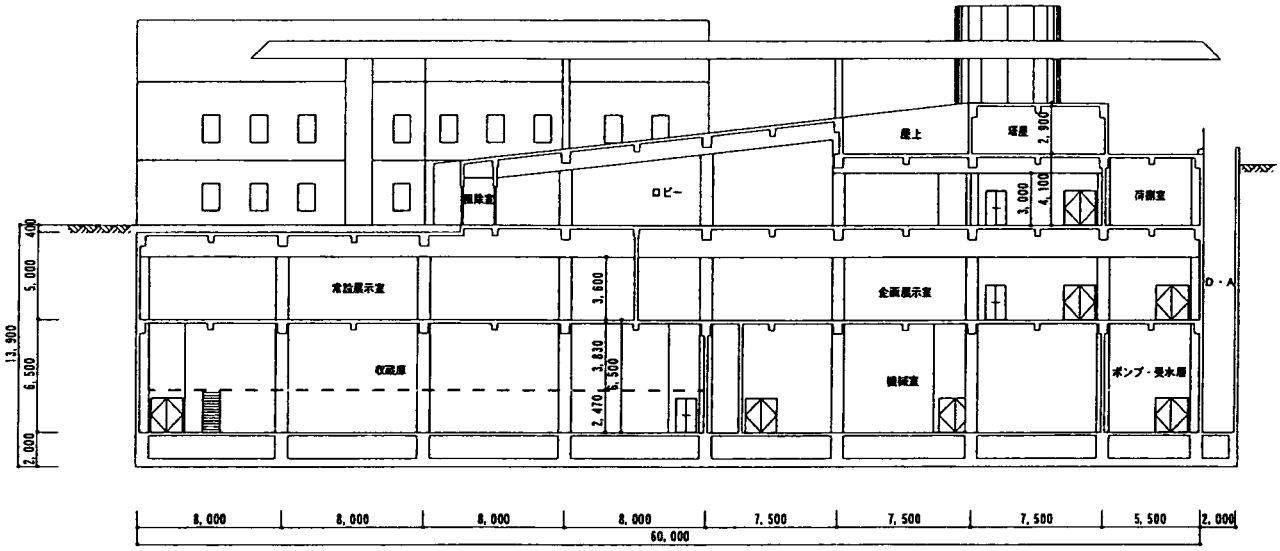
地下 1 階 平 面 図



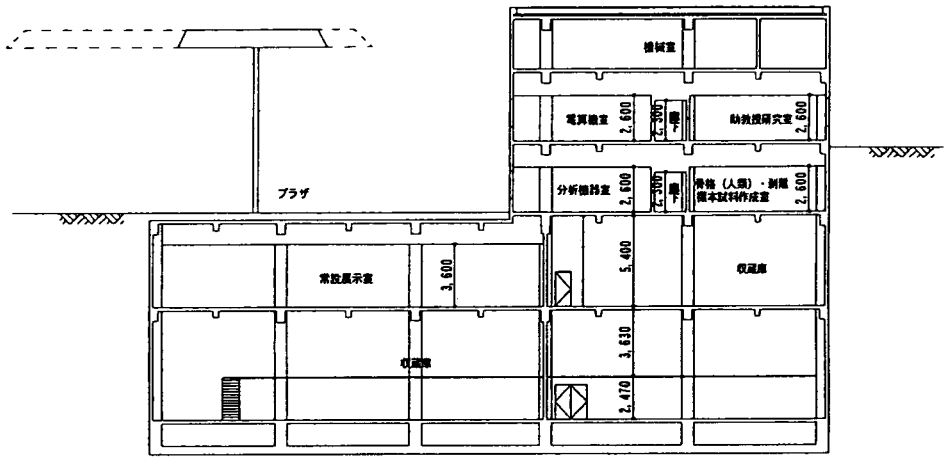
地下 2 階 平 面 図



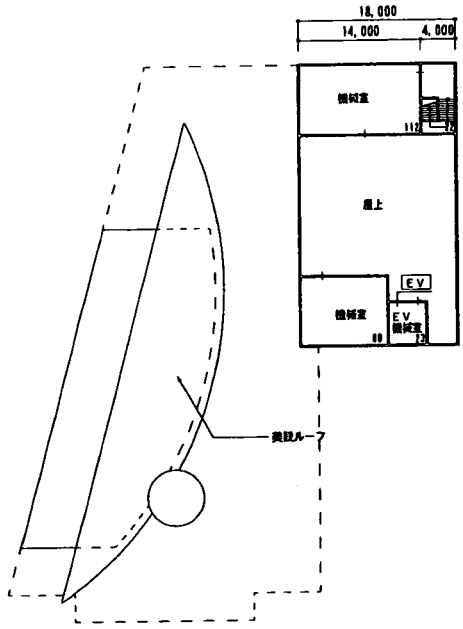
地下 3 階 平 面 図



断　面　図



断　面　図



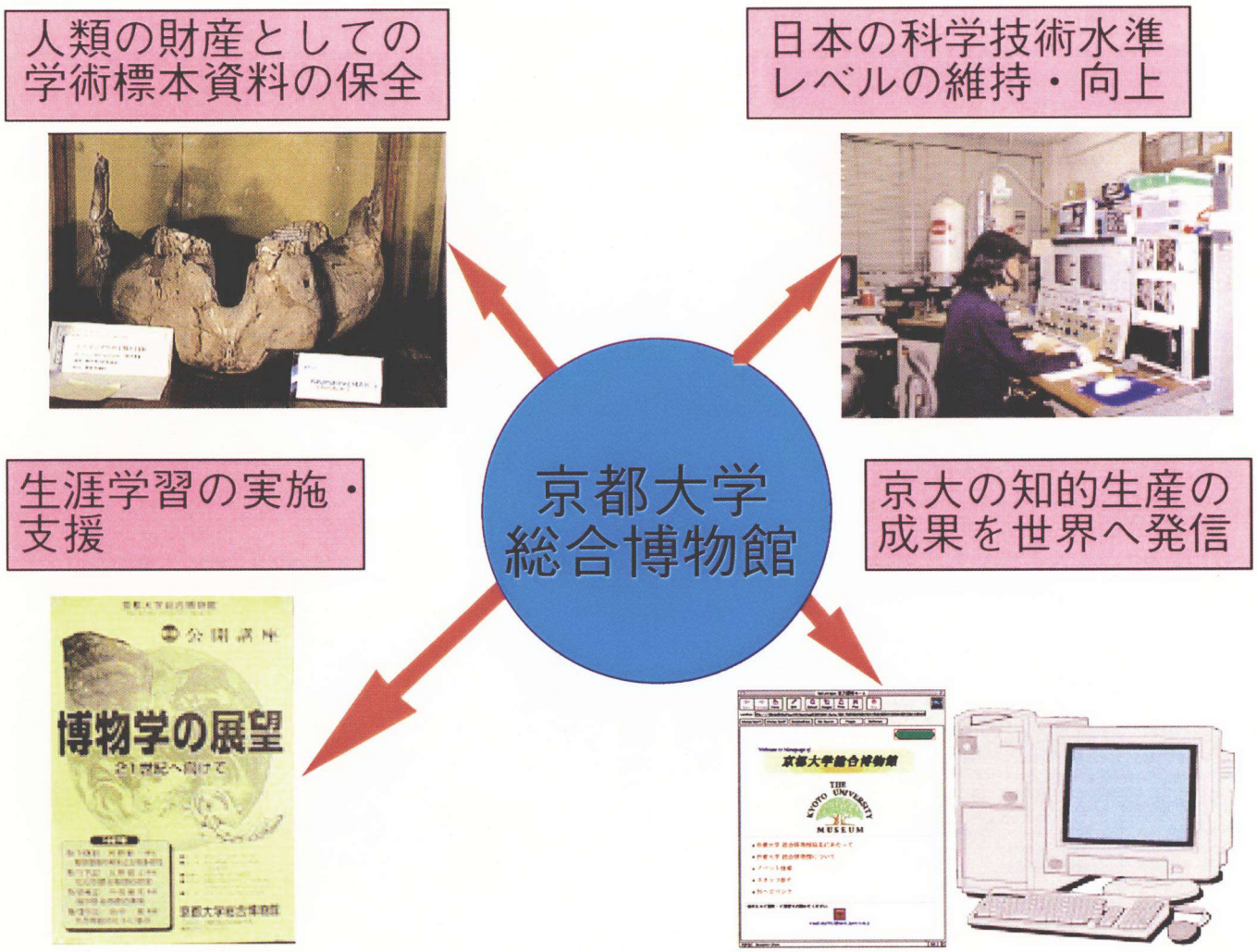
ＲＦ平面図

総合博物館Q/A

京都大学総合博物館の発足とともに学内外からは、期待の声とともに、館の性格、京都大学や社会にとって果たすべき役割についての質問も寄せられています。皆様のご参考になりますように、以下に最も頻繁に寄せられる質問とそれに対する回答（Q/A)を紹介いたします。

Q:**京都大学に所蔵されている自然史標本資料にはどんなものがあるのですか？**（京都市在住、主婦、39歳）

A:現在，京都大学には100年にわたって収集された200万点におよぶ自然史資料が保存されています。その中には、「すみわけ理論」で有名な今西錦司が収集した昆虫標本など著名な研究者のコレクションが多数あります。またエゾカワウソなどすでに絶滅した多くの生物も含まれています。新種を見つけたとき、その「戸籍原簿」となる「タイプ（基準）標本」も多数存在します。これらは、文化財でいえば国宝や重要文化財に匹敵する重要な標本です。



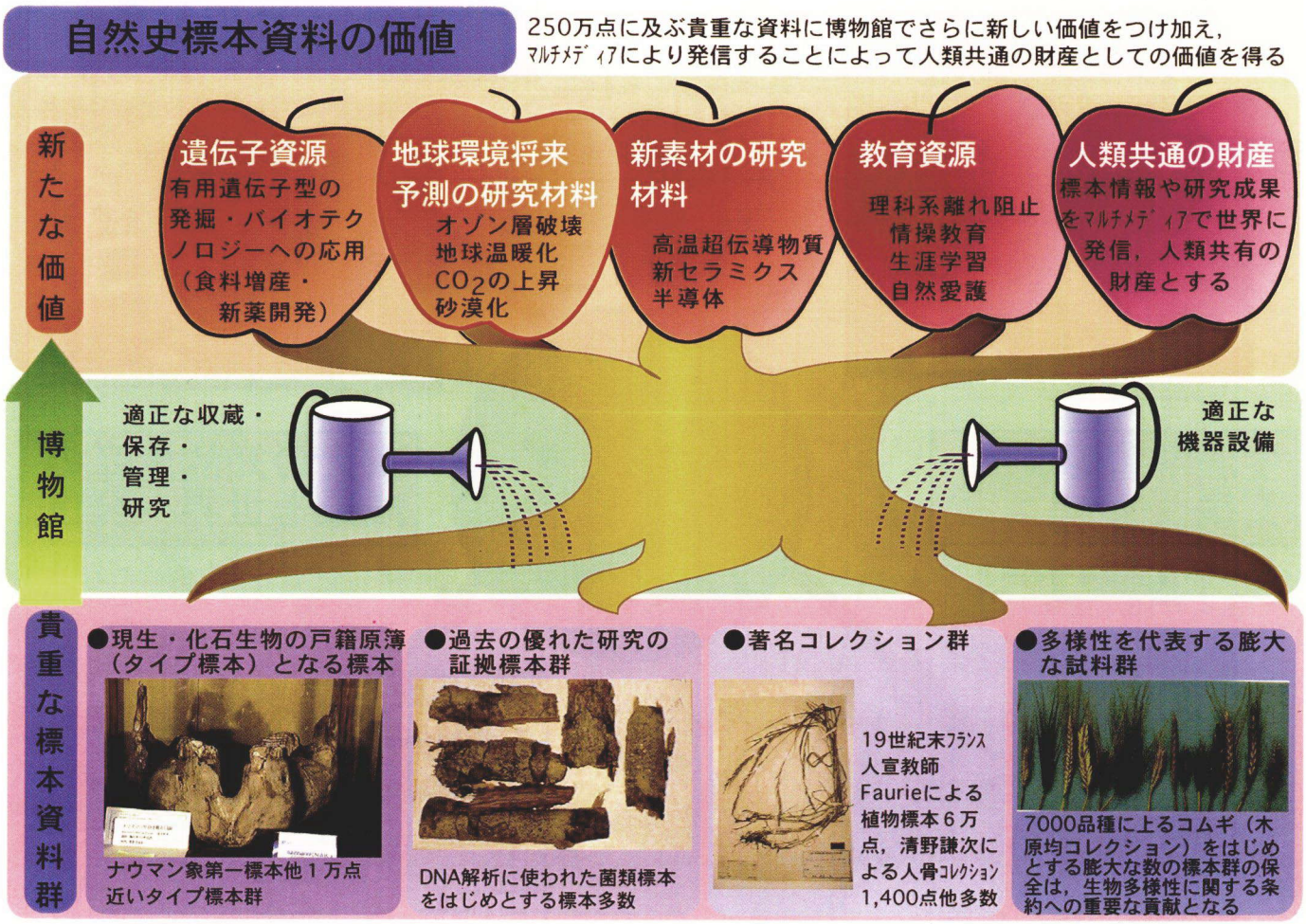
総合博物館の社会的役割

Q:**研究が終わった標本をわざわざ保存しておく意味なんてあるのですか？**（京都市在住高校生、男性、17歳）

A:　最近、火星から降ってきた隕石中から生命の痕跡らしきものが発見され、話題になりました。また、映画『ジュラシック・パーク』で御存知のように、化石からDNAを取り出すこともできるようになりました。隕石や化石が採集された当時このような研究につながるとは誰も予測しませんでした。研究試料（標本）そのものを残しておけば、将来分析・観察技術の進歩とともに、さらに新しい発見が生まれるに違いありません。自然史標本試料は、新しい知的生産のための大きな「学術資源」であり、これを保存活用しないのはもったいないことではありませんか。

Q:**博物館は標本の倉庫ですか？**（滋賀県大津市在住、自営業、男性、55歳）

A貴重な標本資料を大切に収蔵し、必要に応じてすぐにとりだして研究に使えるように整理することは、博物館として当然で、倉庫の役割もはたします。ただし、標本資料から従来想像も出来なかった新しい発見を生み出すためには、適正な研究機器をそなえた知的生産の場が必要となります。まさにその場が総合博物館なのです。総合博物館は、校倉に最新研究設備を合体した、21世紀の正倉院であると言えるでしょう。



自然史標本資料の価値

Q:総合博物館では展示はしないのですか？（東京都在住、出版編集者、女性、36歳）

A:もちろん展示をします。優れた研究の輩出する京大におかれた博物館らしくる、最先端の研究成果の紹介の窓口などを通じて、学内外の学生・大学院生・研究者の独創的研究意欲を刺激できるような創意に充ちた展示をすべく現在企画中です。

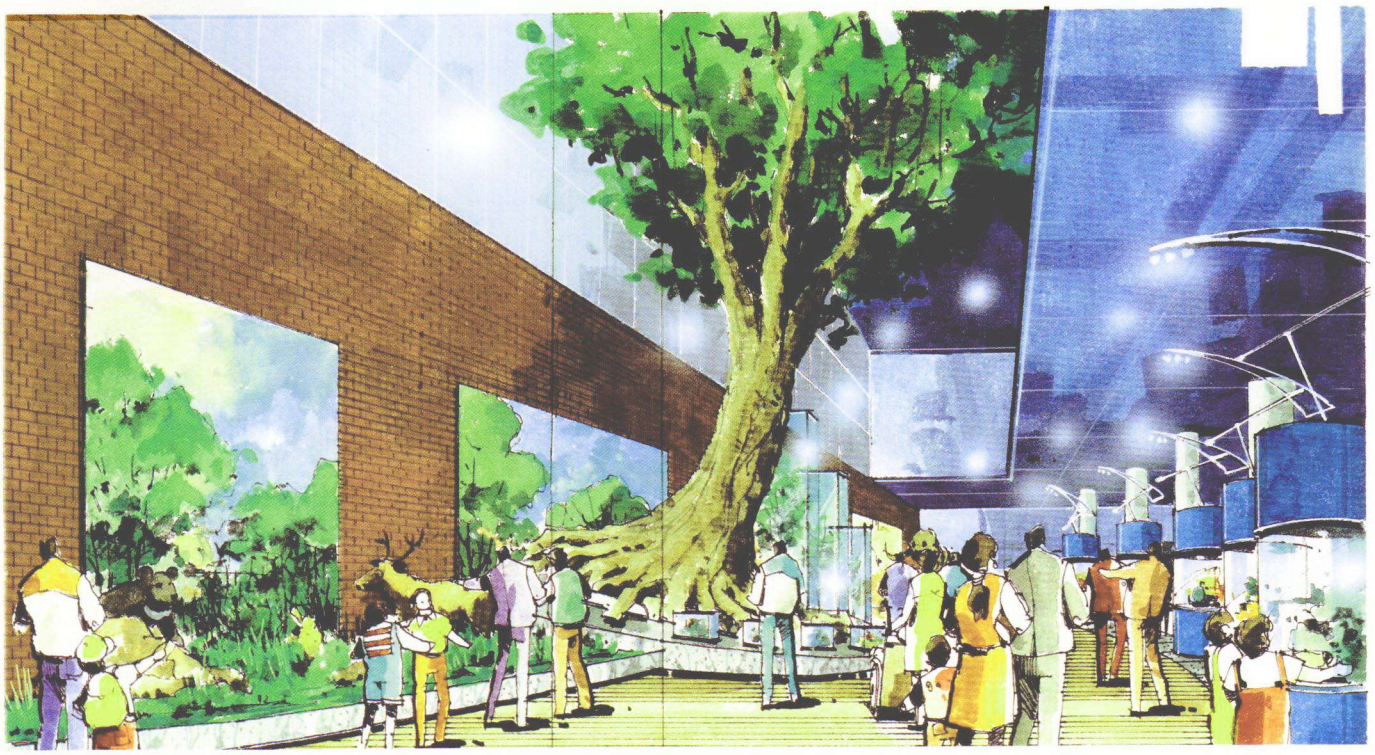
Q:京大は一般には近寄りがたい雰囲気がするのですが？（京都市在住、OL、女性、22歳）

A:総合博物館は、社会に向かって開かれた施設として、大学の近寄りがたいイメージを打ち破ります。科学が専門化するとともに人類に役立つ研究もどんどん難解なものになっています。そこで、総合博物館では、最新のマルチメディア駆使した展示技術を使って最先端の研究成果も、わかりやすく紹介します。見て楽しく、見終わって科学や大学に親しみを覚えていただけるそういう施設にしてゆきます。

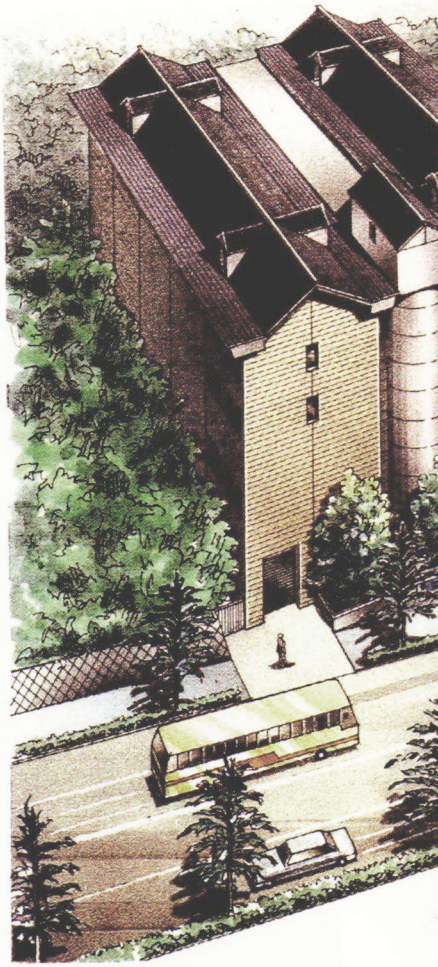
Q:単に楽しい博物館では、社会の支持を得られないのではありませんか？（東京都在住、NGO関係者、女性、58歳）

A:理科系離れは、技術立国であるわが国の将来の発展の土台を根底から覆す危険をはらんだ社会現象です。総合博物館では、わが国の将来を見据え、魅力ある展示や博物館友の会の行事・公開講座などを通じてつねに知的好奇心を刺激し、次代をになう中・高校生の理科系離れの阻止に寄与します。一方では、若年者のモラル低下が嘆かれています。そこで、命の尊さ、自然保護の重要性が子供達にも楽しみながら簡単に理解できるような展示を通じて青少年の情操教育、環境保護意識の向上などの役割も果たしてゆきます。

20世紀、人類は天然資源・化石燃料の大規模消費により、自らの生存環境を根底的に破壊しかねない危機的状況を生み出しました。総合博物館では、独自の調査研究資料をもとに、私たちと地球との共存を意識した、地球人的視野の育成につとめます。このような活動を通じて、日本や国際社会の将来を保証するお手伝いをいたします。



総合博物館展示室イメージ図



発行日1997年７月29日

編集・発行　京都大学総合博物館
〒606-01　京都市左京区吉田本町
電話　075-753-3272
ファクス　075-753-3276

インターネットのアドレス　http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html